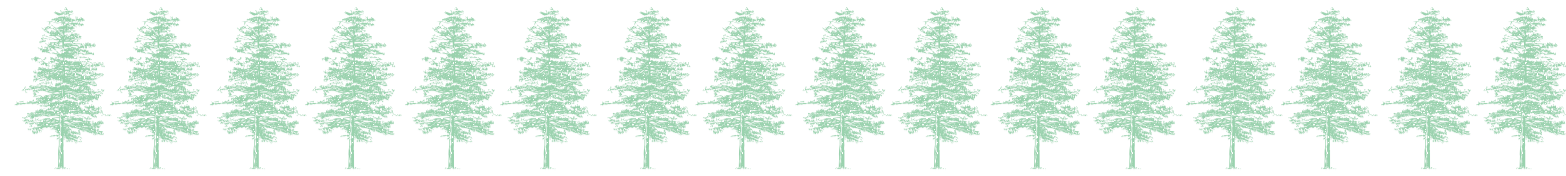


5500人の夢を束ねる全員参加のまちづくり



人が輝き

みりよく
美緑あふれる郷 和東



みりよく
人が輝き 美緑あふれる郷 和東をめざして



5500人の夢を束ねる
全員参加のまちづくり

21世紀を迎えた今、私たちの前には、高度情報化や科学・医療の発展に代表される輝かしい新時代のビジョンが広がる一方で、自然環境汚染や少子高齢化問題など、楽観できない現実が立ちはだかっています。

まちづくりにおいても、国家財政や地方財政の逼迫した状況では、これまでのような補助事業によるまちの基盤整備は今後ますます難しくなり、また人々の生活スタイルが変わりゆく中で、地域における人間関係がますます希薄になり、支え合う共同意識やコミュニティの存続が危うくなってきています。

私たちのまち、和東町にもこのような社会情勢の中で、今までにもまして独自の知恵とアイデア、そして実行力をともなったまちづくりが求められています。

しかし、人口が減少し、少子高齢化が進み、まち全体の活力が低下し続けている現在、和東町のまちづくりにおいては、柔軟で実践的な行政とともに、すべての住民がふるさとを誇り、まちづくりに参加していくためのシステムが必要となっています。

この「和東町第3次総合計画」では、10年後のまちの目標像を「人が輝き 美緑あふれる郷 和東」といたしました。また、この将来像を住民と行政が強いパートナーシップでめざすため、今後10年間のまちづくりのテーマを「5500人の夢を束ねる全員参加のまちづくり」と設定いたしました。

これからは、ふるさとの自然を未来にわたって守り、住む人お互いに支え合い、大切な家族や仲間といつまでもしあわせに生涯を過ごせるまちづくりを、すべての住民参加のもとに進めてまいります。どうぞ、一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

おわりに、本計画の策定にあたり、ご協力いただきました総合計画審議会、まちづくり委員会の皆様をはじめ、関係各位に感謝の意を表し、ごあいさついたします。

平成13年9月 和東町長 堀 忠雄

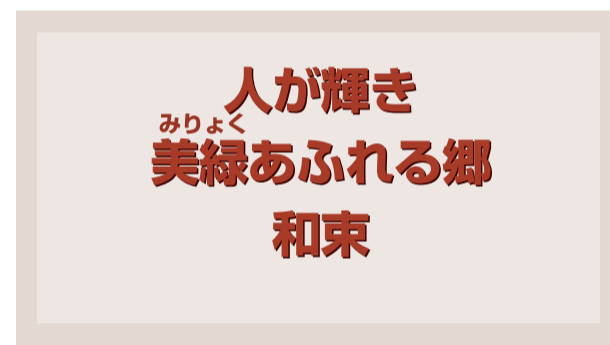
まちの将来像とまちづくりのテーマ

◆まちの将来像

和東町がこれまでの課題を克服し、森林や清流、茶畑などのふるさとの自然と共生しながら、住民がいきいきと輝く暮らしの舞台となる願いをこめて、「和東町第3次総合計画」がめざす10年後のまちの姿を次のとおりとします。

◆まちづくりのテーマ

この将来像を住民と行政が強いパートナーシップでめざすため、今後10年間のまちづくりのテーマを次のとおりとします。



◆計画の名称

この将来像とまちづくりのテーマを踏まえて、「和東町第3次総合計画」の名称を「わづか2010 ふるさと新生プログラム」とします。

六つの郷づくりとシンボル事業

まちづくりを6つの分野に分けて、「六つの郷づくり」と位置づけ、施策の推進を図ります。

また、ふるさと新生プログラムをけん引する2つのシンボル事業として、「美緑の郷地域共有システムの整備」と、「茶源郷イメージアッププロジェクトの推進」を掲げます。

「美緑の郷地域共有システムの整備」は、5500人全員参加のまちづくりのためのシステムとネットワークの構築、住民と行政のパートナーシップの強化をめざすものです。

「茶源郷イメージアッププロジェクトの推進」は、まちの誇りである和東茶のブランド化をめざすとともに、茶業及び農林業・商工業の付加価値の向上により、和東の産品を全国に発信し、多くの来訪者をもてなす、住民と行政の共同プロジェクトです。

計画の位置づけ

「和東町第3次総合計画」は和東町のまちづくりの最上位計画です。また、町の関連計画をリードする総合的なビジョンであり、住民と行政がともにまちづくりを進めるための共通の指針を示します。

■計画の目標年次

本計画の目標年次は10年後の平成22(2010)年度です。

■計画の構成

本計画は「基本構想」と「基本計画」、「実施計画」から成ります。

基本構想

まちづくりの将来の目標を設定し、人口フレームと地域別整備方針のフレーム、分野ごとの方向を示します。

目標年次は平成22(2010)年度です。

基本計画

基本構想具体化のための各分野の施策について事業内容を示します。目標年次は基本構想と同じ平成22(2010)年とし、社会情勢の変化等を勘案し、概ね5年で見直しを行います。

実施計画

基本計画に示された施策実現のための具体的計画で、ローリング方式で3年ごとに実施事業を明らかにします。

まちづくりのフレーム

～将来人口フレームと地域別整備方針～

将来人口フレーム

今後、10年間は公的サービスの向上、道路環境や生活環境の整備を進め、少子化とともに流出傾向をくい止めることで、平成22年において、5000人～5500人の定住人口をめざし、人口フレームを5500人と設定します。

和東町では人口の減少と少子高齢化傾向が続いています。

国勢調査によれば、平成2(1990)年に6079人だった総人口は、平成7(1995)年には5921人(2.6%減)で、平成12(2000)年の結果では5457人(7.8%減)となっています。

なお、住民基本台帳による人口は、平成7(1995)年に6160人で、平成12(2000)年には5754人でした(6.6%減)。国勢調査と住民基本台帳の差の主な原因は、住民登録者のうち、町外に住む人が若年層を中心にいるためと見られます。

以上から、このまま推移すると本計画の目標年次である平成22(2010)年には、総人口は4900人程度にまで減少すると推計されます。

今後、10年間は公的サービスの向上、道路環境や生活環境の整備を進め、少子化とともに流出傾向をくい止めることで、平成22年において、5000人～5500人の定住人口をめざし、人口フレームを5500人と設定します。

美緑の郷をめざす地域別整備方針

和東町は、東西に和東川と基幹軸である府道木津信楽線が横切り、南北軸として府道宇治木屋線が通っています。また、町域は、和東運動公園や茶業の共同施設等のある西和東、公共サービスや教育、商業施設などが集積した中和東と東和東、そして交流の拠点である湯船森林公園がある湯船に分かれています。

ここでは、各地域の構造に基づきながら、自然環境保全及び豊かな住民生活や活発な交流のための地域別整備方針を示します。

